



市長が考える リーダー像とは

滝澤 陽一（つなぐ）



Q 市を代表する市長としてのリーダー像について、どのように考えているか。

A 現場主義に基づき、市民との対話を通じて、多様な思いや地域の実情を把握しながら、市民の目線に立って市政運営に取り組むことである。

Q リーダーとしてどのような成果を残せたか。

A 市政運営を振り返ると、反省すべき点多々あったが、市民に約束した公約のおおむね6割について、一定の成果を持って実現が図られた。将来都市像として掲げる「暮らしやすく、希望あふれるまち」の実現に向けて、目指すまちづくりを着実に前に進めることができた。

柿崎区内における小学校統合の今後は

Q 今後の統合スケジュールはどうか。

A 統合先である柿崎小学校について、校舎壁面の全面的な改修や窓サッシの入替え、内装改修といった大規模な改修が必要となったため、目標としていた令和9年4月の統合を1年先送りし、令和10年4月の統合に向け、現在、保護者や地域に説明を行っている。

Q 校舎改修の期間は、授業をどこで行うのか。

A グラウンド内にプレハブ校舎を設置して授業を行う。児童や教職員への負担が極力かからないよう対応していく。



障害者支援の 更なる拡充を！

西沢 智子（公明党）



Q 障害のある人が住み慣れた地域で生き生きと暮らせるよう、余暇活動や社会参加のための外出支援を行うタクシー利用料金等助成事業について、令和6年6月定例会の一般質問で年内にタクシー券を使い切った際の追加交付を求めたところ、「物価高騰が続いているため令和7年度に向けて検討していきたい」という答弁があった。多くの障害者の方にとって引き続き移動の不安が残されたままとなっているが、この間の検討状況はどうか。

A 助成事業では、タクシー利用券、自動車燃料購入券、自動車燃料購入費助成に加え、令和6年度からは、路線バス利用券とタクシー利用券のセット券を新設し、希望に応じて選択されたものを交付している。また、令和6年の一般質問後には、県内自治体における実施状況の調査や、障害者団体との意見交換会において「タクシー券が不足する場合がある」との声をお聞きしたことを受け、タクシー券の増額や追加交付に向けて検討を進めてきた。引き続き、制度を利用されている方々の声や、他の自治体の取組事例を参考にしながら、令和8年度予算編成に向けて検討していく。



大潟工業団地と新規 工業団地の整備促進を

飯塚 義隆（久比岐野）



Q 大潟工業団地の分譲見通しはどうか。

A 令和7年度内に所有権移転登記や遺跡発掘調査を進め、令和8年度から造成工事に着手し、令和9年4月の分譲を目指していく。

Q 市内の分譲可能面積と、今後の見通しは。

A 5年前には26haが分譲可能であったが、現在は民地も含め8ha程度である。企業ニーズが高まっているため、今後5年から10年の間で25haから30ha不足する見込みである。

Q 事業用地の不足が懸念されることから、新規工業団地の整備を促進するための基本計画を早期に策定すべきでないか。

A 早く関係機関と調整し、具体的な場所で具体的な動きをしていきたい。

Q 企業誘致は、地元企業の雇用環境に影響を与えるが、その対策を講ずるべきでないか。

A 様々な人材確保策と併せ、雇用が少なく税収効果の高いIT関連非労働集約型産業の誘致にも取り組んでいきたい。

保倉川放水路の整備促進の進捗は

Q 事業化に向けた進捗はどうか。

A 事業化の詳細な時期は、現時点では未定とされているが、令和7年9月3日の大雨では、放水路ルート周辺で被害が生じており、一刻も早い事業化に向け、国に強く働きかけていく。